

令和7年度 市長との対話集会（遠敷地区）議事要旨

日 時：令和7年10月28日（火） 19時00分～20時40分

場 所：遠敷コミュニティセンター

参加者：29名

テーマ：新幹線と共に歩む小浜市の将来像

- (サブテーマ) ①新駅が地区にできたなら ②日本遺産プレミアムを活かす
③京都19分・新大阪38分 ④集客を考えた将来像

1 参加者からの主な意見

(1) 新駅周辺の賑わい創出と観光客誘致

- ・新駅周辺にイベント施設や商業施設を誘致し、賑わいを創出。
- ・観光客を呼び込むための魅力的なコンテンツが必要。

(2) 若者・子育て世帯の定住促進

- ・京都・大阪への通勤・通学が可能になることで、若者の仕事確保や暮らしの利便性向上を期待。
- ・若者や子育て世帯が小浜市に移住・定住できるよう、住宅支援の充実を図る。
- ・大学や国の機関などを誘致し、若者が地元に残る、または移住するきっかけを作る。

(3) 地域資源の活用とアクセス改善

- ・遠敷地区の歴史・文化資源（姫神社、彦神社、神宮寺、鯖街道）を活かし、新駅から遠敷地区へのウォーキングルートを整備。
- ・新駅への二次交通（車なしでも移動できる手段）が不足しており対策が必要。

(4) 日本遺産「鯖街道」の振興

- ・美郷小学校の体験活動や日本遺産「鯖街道」の継続的な活動への補助金等の支援を要望。
- ・自転車・バイク利用者のための観光トイレや休憩所の整備。
- ・滋賀県側と連携した分かりやすいパンフレット作成やSNSでのPR強化。「日本遺産鯖街道」の看板増設がPRに効果的。
- ・上根来に「山の駅」のような拠点施設（宿泊施設、キャンプベースなど）を設置。
- ・新幹線と鯖街道ウォーキングを組み合わせた観光プランの企画。

(5) 滞在型観光の推進とインフラ整備

- ・滞在型観光を促進するため、温泉開発を要望（過去の調査で可能性ありとの情報）。
- ・京都のオーバーツーリズムを逆手に取り、日本海に一番近い小浜市に外国人の観光客誘致を強化。
- ・観光客増加に対応するための受け入れ体制（案内、交通手段）の整備が必要。
- ・体験型施設（自然体験、キャンプ、グランピング）の整備。

(6) 産業・経済の活性化

- ・京都・大阪からの企業誘致を促進するため、安い土地価格や電気代補助などの優遇策をPR。
- ・物流に新幹線を活用することによる鮮魚などの輸送強化に期待。

(7) 既存施設の活用と新たな魅力創出

- ・既存の神社仏閣の魅力をさらに引き出し、体験プログラム（座禅・写経など）の企画・PR。
- ・空き家問題に対し、市による買い取りや移住者への提供、学生によるリノベーションなど、積極的な活用策を検討。

- ・若狭の里公園のイルミネーション化（例：なばなの里）や彦神社の土俵復活とちびっこ相撲開催など新たな集客イベントを企画。

2 市長からの主な回答

(1) 若者定着・人口増加への期待と施策検討

- ・若い人たちが小浜に定着し、根を張るまちづくりが重要であると認識。
- ・新幹線通勤・通学による若者の流出抑制や人口増加に期待しており、地方居住ニーズの増加や企業の人才確保策（交通費支給）が小浜市にとってプラスに働く可能性がある。
- ・大学誘致についても検討していく。

(2) 新駅周辺の賑わい創出と文化・交流拠点化

- ・新駅周辺にアリーナのような施設（スポーツ、学会、イベント、コンサートなど多目的な文化施設）があれば小浜を目的地として選ばれる可能性がある。
- ・京都 19 分・新大阪 38 分の立地を活かし、関西からの集客と宿泊施設への展開を仕掛けたい。

(3) 地域資源の価値創造と広域連携

- ・遠敷地区へのウォーキングルートを活かした観光誘客は面白い（スローな価値）。
- ・小学生の鯖街道踏破体験が日本遺産認定の大きな要因となったことを評価。
- ・スポーツまちづくりを通じて、企業からの社会貢献としての寄付を募るアプローチを検討。
- ・京都の企業とも連携し、広域的な繋がりを構築することで、持続的な地域活性化を目指す。
- ・新幹線と鯖街道ウォーキングを組み合わせた「鯖街道新幹線」のような独自の価値を創造（ルート限定の特典など）することを検討。

(4) 観光インフラ整備とオーバーツーリズム対策

- ・観光客受け入れ体制の事前準備の重要性を認識しており、京都や奈良などオーバーツーリズム地域の事例も参考にしていく。
- ・自動運転バスなどの技術活用により、将来的な交通手段の問題をカバーできる可能性がある。
- ・京都や奈良のオーバーツーリズムに対し、小浜市に誘客できる可能性があり、観光客を「奪い合う」のではなく「共有する」視点で取り組む。

(5) 産業・物流のハブ化

- ・新幹線による物資輸送を想定し、日本海側で関西に最も近い小浜市の地理的優位性を認識。
- ・小浜市が北陸や京都北部のハブ（物流、観光、東西南北の結節点）になりうる。

(6) 空き家問題への対応と地域活性化

- ・空き家問題に対し、市による買い取りは財政的に厳しいが、「〇〇ハウス」のようなオーナー募集や建築・設計を学ぶ学生によるリノベーションプロジェクトなどのアイデアは面白い。
- ・神社仏閣の保護・活用には多くの人に来てもらうことが重要であり、クラウドファンディングなど小浜を好きな人から投資を募る仕組みを検討。

(7) 地域独自の魅力追求

- ・「ここでしか味わえないもの」「ここでしかできない暮らし」の価値創造が、小浜市が目的地となるための最大のキーワードである。
- ・若狭の里公園のイルミネーション化やちびっこ相撲開催といったアイデアが地域の活性化、市全体に波及していくことを期待。